

教育史学会

第52回大会 プログラム

2008年9月20日(土)
～ 21日(日)

青山学院大学
(青山キャンパス)

教育史学会

第52回大会 プログラム

2008年9月20日(土)
～ 21日(日)

青山学院大学
(青山キャンパス)

教育史学会 第52回大会準備委員会 事務局 (担当: 佐々木竜太)

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25 青山学院大学教育学科合同研究室気付

Tel. 03-3409-7906 FAX. 03-3409-1528 E-mail: jseh52@cl.aoyama.ac.jp

大会ホームページ: <http://www.cl.aoyama.ac.jp/~jseh52>

(教育史学会ホームページにリンクが貼ってあります)

- 教育史学会第52回大会参加のご案内 -

大会参加費，懇親会費 前納のお願い

第52回大会では，大会参加費と懇親会費について，前納方式を採用します。大会当日の受付をスムーズに行うためにも，会員の皆様のご協力をお願い致します。

①大会参加費，懇親会費

	前納 (8/31 まで)		当日	
	一般会員	院生会員	一般会員，臨時会員	院生会員，臨時学生会員
大会参加費	3000 円	2000 円	3500 円	2500 円
懇親会費	5000 円	4000 円	5500 円	4500 円

②振込み先

i) ゆうちょ銀行

(口座名称：教育史学会第52回大会準備委員会，口座番号：00160-7-726605)

※「教育史学会第52回大会 開催のご案内」(2008年5月末に学会事務局から送付済)に同封しました郵便振込用紙をご利用ください。紛失された方は，郵便局に備え付けの用紙をお使いください。

ii) 三井住友銀行 青山支店

(口座名称 教育史学会第52回大会準備委員会 佐々木竜太 店番号 258 口座番号 (普) 6923495)

③振込み期限 2008年8月31日(日) (期日厳守)

※振込手数料はご本人の負担となります。

※お振込みいただいた大会参加費，懇親会費のキャンセルは，2008年8月31日(日)までに準備委員会事務局へファックスかEメールでご連絡いただいた場合に限り，受け付けます。準備委員会から返金する際の振込手数料は，ご本人の負担とさせていただきますので，お振込みいただいた金額から，手数料を差し引いた額を返金いたします。

受付

大会参加の受付は，9号館1階ロビーにおいて9月20日(土)，21日(日)ともに8時15分から行います。

<参加費を前納された方>

受付へ「払込受領証」(ご利用明細)をご持参ください。確認後，『発表要綱集録』と名札(記入済)等をお渡しします。

<当日お支払いされる方>

受付で大会参加費(一般会員・臨時会員…3500円，院生会員・臨時学生会員…2500円)をお支払いください。『発表要綱集録』と名札(未記入)等をお渡し致しますので，大会会場へ行かれる前に名札へご所属とお名前の記入をお願い致します。懇親会への参加も受け付けいたします。

また，学会年会費の納入は，学会事務局の受付で行います。

研究発表・コロキウム

- ① 研究発表時間は、一人あたり 30 分（研究発表 25 分、質疑 5 分）です。
- ② 発表内容は未発表の研究に限ります。
- ③ 発表者が欠席の場合、発表時間の繰り上げは行いません。また、発表者が遅刻の場合は、発表資格を失います。ご注意ください。
- ④ 発表に関わるレジュメ、資料などを会場で配布される場合、十分な部数をご用意ください。大会準備委員会では、印刷・増刷に応じられません。
- ⑤ コロキウムは 3 つのテーマが企画されております。ふるってご参加ください。

シンポジウム（公開）

シンポジウムのテーマは、「戦後史における〈価値教育〉—宗教教育・道徳教育の過去と現在—」です。公開シンポジウムですので、会員以外の方も参加できます（資料代：500 円）。詳細は、本プログラム 8、9 ページをご参照ください。

懇親会

9 月 20 日（土）のシンポジウム終了後、18 時 30 分より「アイビーホール青学会館」（〒150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25、<http://www.aogaku-kaikan.co.jp/>）にて懇親会を開催いたします。懇親会費は、前ページの「大会参加費、懇親会費 前納のお願い」をご参照ください。多数の皆様のご参加をお待ちしています。

昼食

9 月 20 日（土）は大学食堂を利用できますが、21 日（日）は利用できませんのでご了承ください。昼食につきましては、大会当日受付にて、キャンパス周辺の飲食店マップを配布致しますので、ご参照ください。

会場までのアクセス、駐車場

- ① 青山学院大学（青山キャンパス）までのアクセスは、本プログラム 5 ページをご参照ください。
- ② 駐車場の用意はありませんので、公共の交通機関をご利用ください。

宿泊

宿泊につきましては各自での手配をお願い致します。大会準備委員会による斡旋は行いません。

大会本部、クローク

大会期間中の 9 月 20 日（土）、21 日（日）の両日、大会本部は 11 号館 2 階・1120 教室に設置されます。

またクロークは、9 月 20 日（土）、21 日（日）の両日、11 号館 2 階・1122 教室に設置されます。

タイムスケジュール

	2008年9月20日(土)	2008年9月21日(日)	
8:15	受付 (7号館1階ロビー)	受付 (7号館1階ロビー)	
9:00	研究発表 (11号館3階:1134,1135 4階:1143,1144)	研究発表 (11号館3階:1134,1135 4階:1143,1144)	
12:00	昼休み	昼休み	
13:00	総会 (1123教室)		
14:00	シンポジウム (910教室)	研究発表 (11号館3階:1134,1135 4階:1144)	16:00
		移動	
		コロキウム (11号館3階:1134,1135 4階:1143)	16:10
18:00	移動		
18:30	懇親会 (青学会館)		
20:30			

※この他、9月19日(金)には、理事会、機関紙編集委員会、書評委員会が予定されています。

教育史学会 第52回大会準備委員会 準備委員 ※五十音順

池田稔(青山学院大学)、一見真理子(国立教育政策研究所)、大森秀子(青山学院大学)
 沖塩有希子(青山学院大学・非)、小玉亮子(お茶の水女子大学)、酒井豊(青山学院大学)、
 佐々木竜太(青山学院大学)、佐藤由美(埼玉工業大学)、清水康幸(青山学院女子短期大学)、
 杉本真由美(青山学院大学・院)、谷本宗生(東京大学)、新田司(千葉敬愛短期大学)、
 前田一男(立教大学)、前之園幸一郎(青山学院女子短期大学・名)、
 村知稔三(青山学院女子短期大学)

- 青山学院大学 青山キャンパスへの交通案内 -

路線マップ



会場はこちらです。

青山キャンパス周辺図

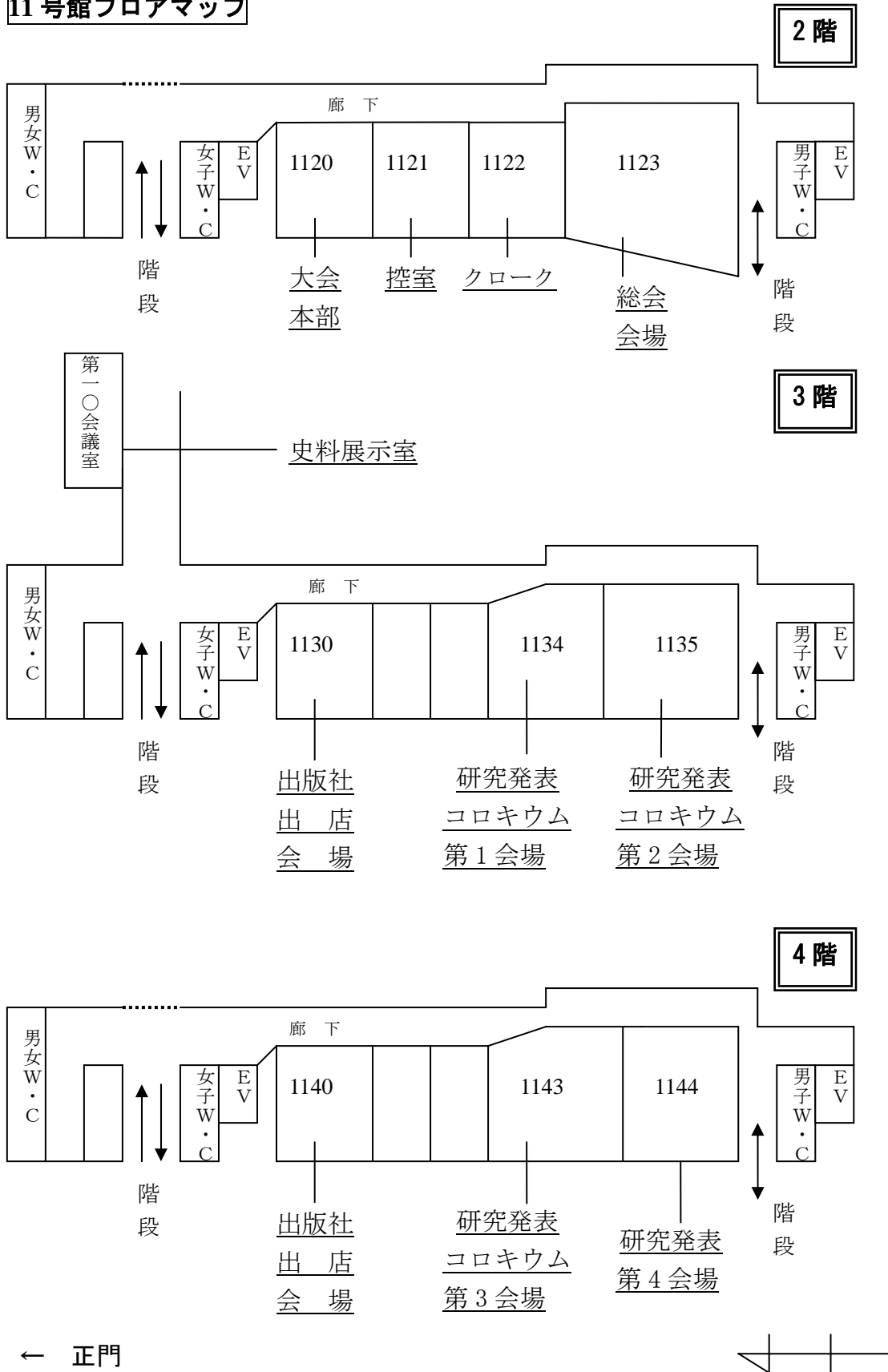


- ・ JR山手線，東急東横線・田園都市線，京王井の頭線 「渋谷駅」
宮益坂方面の出口より，徒歩約10分
- ・ 東京メトロ半蔵門線，銀座線，千代田線 「表参道駅」 B1出口より，徒歩約5分

キャンパスマップ



11号館フロアマップ



- シンポジウム -

テーマ：戦後史における〈価値教育〉—宗教教育・道徳教育の過去と現在—

日時： 2008年9月20日（土）14：00～18：00

場所： 青山学院大学 青山キャンパス 910 教室

（「大会案内」でお知らせした教室とは変更になりました）

報告者： 柴沼 晶子 （敬和学園大学・名誉教授）

朴 憲 都 （東京神学大学）

高橋 陽一 （武蔵野美術大学）

コメンテーター： 江原 武一 （立命館大学）

井上 順孝 （國學院大學）

司会者： 清水 康幸 （青山学院女子短期大学）

大森 秀子 （青山学院大学）

趣 旨： 価値にかかわる教育（以下〈価値教育〉）の問題は、日本における教育史研究では「宗教と教育」ないし「道徳教育」をめぐる問題として扱われることが多かった。「宗教と教育」については、国家と宗教、公教育と宗教、政教分離原則等の視点から研究がなされ、「道徳教育」については、国家と道徳、知育と徳育の関係、道徳教育の内容と方法といった視点から研究がなされてきた。いずれも第二次世界大戦前を研究対象とするものが圧倒的に多く、戦後60年以上にわたる世界の公教育における〈価値教育〉の研究は、いまだ十分な蓄積があるとは言えない。

第二次大戦後の教育において、国公立学校で〈価値教育〉をいかに取り扱うかは、それぞれの国の時代状況を反映し変化してきた。とりわけ、21世紀転換期におけるグローバル化と多文化・多宗教社会の進行に伴い、問題は「宗教と教育」ないし「道徳教育」の枠を越えて、広く〈価値教育〉のあり方をめぐって著しい変化と模索のただ中にある。欧米における「シティズンシップ教育」の広がりやOECDによる「キー・コンピテンシー」の提唱などはその表れとみることができる。それらは、教育基本法「改正」以後の日本の教育政策や〈価値教育〉の動向にも影響を与えつつある。

教育史学会のシンポジウムでは、1996年の第40回大会（「現代史における宗教・教育・学校—その研究状況と課題をたしかめる」於：立教大学）以来このテーマを取り上げていない。そこで本シンポジウムでは、その後10年あまりの世界の動向をも視野に入れつつ、公教育における〈価値教育〉をめぐる史的展望を探っていきたい。

具体的には、ヨーロッパ（英国）、アジア（韓国）、日本における〈価値教育〉の動向を、宗教教育・道徳教育を中心に比較検討することとしたい。ここでは、現代における政教分離原則の解釈、EU拡大と国民統合の課題、多文化共生とナショナリズムの関係、価値の多様化と文

化的伝統の関係、知的教育と〈価値教育〉の関係、宗教教育と道德教育の関係、「シティズンシップ教育」の可能性、等々が論点となろう。

<報告者 プロフィール>

○ 柴沼晶子（しばぬま あきこ）

国際基督教大学教育学研究科修士課程修了。フェリス女学院短期大学助教授、敬和学園大学教授を経て、現職。共著に、国立教育研究所内道德教育研究会編『道德教育の現状と動向—世界と日本』（ぎょうせい、1982年）、共編著に『開かれた学校と学習の体験化—教師教育のパラダイム転換をめざして』（教育開発研究所、1992年）、『現代英国の宗教教育と人格教育（PSE）』（東信堂、2001年）など。

○ 朴憲郁（ぱく ほんうく）

東京神学大学大学院修了（神学修士）、基督教大韓監理教神学大学にて研修（韓国ソウル）、大韓イエス教長老会神学大学大学院修了（神学修士、韓国ソウル）、テュービンゲン大学神学部博士課程修了（神学・新約学博士）。著書に、『パウロの生涯と神学』（教文館、2005年）、共著にNCC教育部歴史編纂委員会編『教会教育の歩み—日曜学校から始まるキリスト教教育史』（教文館、2007年）、論文に「信仰と教育—歴史的・キリスト教教育学的一考察」『神学』68号（東京神学大学神学会、2006年）など。

○ 高橋陽一（たかはし よういち）

東京大学大学院教育学研究科博士課程満期退学。著書に『道德教育講義』（武蔵野美術大学出版局、2003年）、共編著に寺崎昌男ほか編『近代日本における知の配分と国民統合』（第一法規出版、1993年）、東京大学史史料室編『東京大学の学徒動員・学徒出陣』（東京大学出版会、1997年）、論文に「宗教的情操の涵養に関する文部次官通牒をめぐって 吉田熊次の批判と関与を軸として」『武蔵野美術大学研究紀要』第29号（1998年）など。

<コメンテーター プロフィール>

○ 江原武一（えはら たけかず）

東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学。奈良教育大学助教授、京都大学教授等を経て、現職。教育学博士（東京大学）。著書に『大学のアメリカ・モデル』（玉川大学出版部、1994年）、編著に『世界の公教育と宗教』（東信堂、2003年）、『基礎教育学』（放送大学教育振興会、2007年）など。

○ 井上順孝（いのうえ のぶたか）

東京大学大学院人文科学研究科博士課程中退。東京大学文学部助手、國學院大學日本文化研究所教授を経て、現職。博士（宗教学）。著書に『若者と現代宗教』（ちくま新書、1999年）、編著に國學院大學日本文化研究所編『宗教と教育 日本の宗教教育の歴史と現状』（弘文堂、1997年）、国際宗教研究所編『教育のなかの宗教』（新書館、1998年）など。

- 研究発表 -

9月20日(土) 第1日 午前

第1会場 1134教室 (11号館 3階)

司会 : 谷本宗生(東京大学) 三木一司(近畿大学九州短期大学)

- [1] 9:00 明治9年の第一大学区教育会議に関する一考察
湯川嘉津美(上智大学)
- [2] 9:30 1890年代前半における「国立教育運動」
—国家教育社の役割に着目して—
山本和行(京都大学・院)
- [3] 10:00 1900年代における文部省人事体制の転換
鄭賢珠(奈良県立医科大学・非)
- [4] 10:30 学校園概念の成立
—1905年学校園施設通牒をめぐって—
田中千賀子(武蔵野美術大学・院)
- [5] 11:00 1910年代初頭の高等教育政策における方針転換
吉川卓治(名古屋大学)
- 〈総合討論〉 11:30~12:00

第2会場 1135教室 (11号館 3階)

司会 : 佐藤幹男(仙台大学) 船寄俊雄(神戸大学)

- [6] 9:00 歩兵操練導入の背景に関する一考察
奥野武志(早稲田大学・院)
- [7] 9:30 秋田県の「尋常小学校本科准教員準備場」における教員養成
釜田史(神戸大学・院)
- [8] 10:00 占領期における戦後教育改革理論の普及と地方軍政部
—長崎県を事例に—
松本和寿(九州大学・院)
- [9] 10:30 戦後学芸大学の創設と教員組織の形成過程
山崎奈々絵(お茶の水女子大学・院)
- 〈総合討論〉 11:00~12:00

第3会場 1143 教室 (11号館 4階)

司会 : 森川輝紀 (埼玉大学) 山田恵吾 (茨城大学)

- [10] 9:00 1930年代沖縄における郷土教育運動の展開
—『沖縄教育』誌上の議論に着目して—
照屋信治 (京都大学・院)
- [11] 9:30 近代日本の農本的地域教育の思想と実践
—戦間期全村教育の分析を通して—
三羽光彦 (芦屋大学)
- [12] 10:00 戦時体制下の初等教育における職業指導の様態
石岡学 (日本学術振興会特別研究員)
- [13] 10:30 間宮不二雄の学校図書館論
—山形市男子国民学校の学校図書館実践に注目して—
國枝裕子 (南九州大学)

〈総合討論〉 11:00~12:00

第4会場 1144 教室 (11号館 4階)

司会 : 蔭山雅博 (専修大学) 牧野篤 (東京大学)

- [14] 9:00 清末・民初期初等教育における郷土教育の一考察
許芳 (早稲田大学・院)
- [15] 9:30 壬戌学制における六・三・三制の各省教育庁による採用形式
今井航 (別府大学)
- [16] 10:00 中国幼児教育史における農村幼児教育の系譜
—1920年代~40年代を中心に—
一見真理子 (国立教育政策研究所)
- [17] 10:30 帝国大学・高等学校における中国人留学生
—第一高等学校特設高等科の役割に着目して—
Yan Ping (日本学術振興会外国人特別研究員)

〈総合討論〉 11:00~12:00

9月21日(日) 第2日 午前

第1会場 1134教室 (11号館 3階)

司会 : 八鍬友広(新潟大学) 辻本雅史(京都大学)

- [18] 9:00 18-19世紀の朝鮮における長幼の序の学びと礼の習得
—『四禮便覧』を中心に—
金明淑(同志社大学・院)
- [19] 9:30 手島堵庵における教化運動の始動 —石門心学の成立をめぐる—
高野秀晴(天理大学・非)
- [20] 10:00 近世江戸における茶書の教育学的位置 —川上太白『太白筆記』を中心に—
山口理沙(日本学術振興会特別研究員)
- [21] 10:30 近世後期における旅の学習効果 —メディアとしての名所—
鈴木理恵(長崎大学)
- [22] 11:00 明治・大正期における娯楽と教育をめぐる映像メディアの系譜
—写し絵・幻灯・活動写真—
青山貴子(日本学術振興会特別研究員)
- 〈総合討論〉 11:30~12:00

第2会場 1135教室 (11号館 3階)

司会 : 斉藤利彦(学習院大学) 太郎良信(文教大学)

- [23] 9:00 ペスタロッチ教育学における身体の位置づけと近代日本への影響
—“physische Elementarbildung”の概念の検討から—
中野浩一(日本大学・非)
- [24] 9:30 東京高等師範学校附属小学校による教育実践モデルの形成過程
—雑誌『教育研究』と全国小学校訓導協議会—
大西公恵(一橋大学・院)
- [25] 10:00 1920年代日本におけるドルトン・プランの批判的摂取への契機
—赤井米吉の宗教的教育思想に着目して—
足立淳(名古屋大学・院)
- [26] 10:30 大正期における林間・臨海学校の展開 —東京市の事例を中心に—
野口穂高(早稲田大学・院)
- [27] 11:00 1930年代における初等教育の教科課程改造に関する一考察
井上兼一(中京女子大学)
- 〈総合討論〉 11:30~12:00

第3会場 1143教室 (11号館 4階)

司会 : 山名淳 (東京学芸大学) 広瀬信 (富山大学)

- [28] 9:00 カントの啓蒙主義的人間形成論
—ボック『教授法』(1780年)との比較を通して—
藤井基貴 (静岡大学)
- [29] 9:30 1840年代のマコーリーの公教育観
—State Education と National Education の関係性の視点から—
信澤淳 (駒澤大学・院)
- [30] 10:00 20世紀初頭ドイツにおけるアリス・ザロモンの
社会事業構想と職業専門教育について
杉原薫 (広島大学・院)
- [31] 10:30 ヤヌシュ・コルチャックの子ども・教育思想の歴史的形成 (1890-1920年代)
—子どもを人間として尊重するという思想の形成を中心に—
塚本智宏 (名寄市立大学)
- [32] 11:00 労働者教育協会とオックスフォード大学の連携
—A.マンズブリッジを中心に—
土井貴子 (瀬戸内短期大学)
- 〈総合討論〉 11:30~12:00

第4会場 1144教室 (11号館 4階)

司会 : 宮崎聖子 (県立福岡女子大学) 佐野通夫 (四国学院大学)

- [33] 9:00 「教育所ニ於ケル教育標準」(1928年)下の台湾先住民教育
北村嘉恵 (北海道大学)
- [34] 9:30 植民地台湾における実業補習学校と民衆生活に関する一考察
豊田明子 (名古屋大学・研)
- [35] 10:00 1930年代朝鮮における神社「地方化」志向の再検討
—朝鮮神職会会報『鳥居』に即して—
樋浦郷子 (京都大学・院)
- [36] 10:30 京城帝国大学の英文学講座
ユンスアン (京都大学・院)
- 〈総合討論〉 11:00~12:00

9月21日(日) 第2日 午後

第1会場 1134教室 (11号館 3階)

司会 : 小山静子(京都大学) 友野清文(日本私学教育研究所)

[37] 13:00 近代日本における性教育論の諸相とその特徴
—翻訳性教育論を中心に—

田代美江子(埼玉大学)

[38] 13:30 社会運動家の性教育論における男女観
—1920～30年代の日本を中心に—

村瀬桃子(名古屋芸術大学・非)

[39] 14:00 1920 - 30年代における青少年の性道德紊乱問題
—風紀取締対策と性教育論の分析を中心に—

久保田英助(早稲田大学・非)

[40] 14:30 総力戦体制下における小学校女性教員の職業と家庭の両立問題

齋藤慶子(日本学術振興会特別研究員)

[41] 15:00 占領期「婦女子」関係の諸政策と「保安関係検挙 学歴別」表

谷村和枝(立教大学・院)

〈総合討論〉 15:30～16:00

第2会場 1135教室 (11号館 3階)

司会 : 高橋寛人(横浜市立大学) 大橋基博(名古屋造形芸術大学短期大学部)

[42] 13:00 占領期沖縄における農林高等学校拓殖科の役割とその意義
—拓殖科設置から廃止までの経緯を通して—

小林茂子(中央大学・非)

[43] 13:30 戦後学制改革期における第一高等学校寮自治の変容と継承

田中智子(お茶の水女子大学・院)

[44] 14:00 戦後社会教育におけるグループワーク論の成立過程

青山鉄兵(桐蔭横浜大学)

[45] 14:30 高校水産教育概念の成立と展開 —戦後昭和期を中心に—

中野浩(東京大学・院)

〈総合討論〉 15:00～16:00

第4会場 1144教室 (11号館 4階)

司会 : 槻木瑞生 (同朋大学名誉教授) 渡部宗助 (埼玉工業大学)

[46] 13:00 草創期東洋婦人会に関する研究

董秋艶 (九州大学・院)

[47] 13:30 帝国日本内を移動する教員

山本一生 (東京大学・院)

[48] 14:00 樺太庁師範学校における樺太史教育

池田裕子 (稚内北星学園大学)

[49] 14:30 日本占領時期香港の教育

山田美香 (名古屋市立大学)

〈総合討論〉 15:00～16:00

- コロキウム -

9月21日(日) 16:10~18:00

コロキウム第1会場(1134教室)

《三角測量》による比較教育史
—沖繩・ヨルダン・ブルターニュ—

オルガナイザー 越水雄二 (同志社大学) 基調・ブルターニュ報告
報告者 長谷川精一 (相愛大学) 沖繩報告
*ゲスト報告者 北澤義之 (京都産業大学) ヨルダン報告

〈設定趣旨〉

本コロキウムは、沖繩、ヨルダン、ブルターニュという三つの地域での主に19世紀以降の文化変容を、近代的な教育システムが形成された過程との関連において解明し、それらを比較考察する作業を通じて、教育史研究のまた一つの可能性を探る試みである。この趣旨は、日本教育史とフランス教育史をそれぞれ沖繩およびブルターニュという地域から捉え直して比較するだけでなく、イスラーム文化圏の「人工国家」ヨルダンの事例も参照項に加えた《三角測量》により、比較教育史の新たな方向性を追究する点にある。

《三角測量》とは、文化人類学者の川田順造氏が提唱している研究方法である。川田氏は、人間の身体技法と技術との関連を、日本とフランスにアフリカの旧モシ王国を加えた三つのフィールドで調査し、それらの比較によって各文化の特質を浮かび上がらせながら、身体技法と技術との関連をめぐる一般理論の考察も行った。こうした比較研究がもたらすメリットを、氏は次の3点に整理している(川田順造「三角測量による文化比較」『人類の地平から』ウエッジ、2004、142-168頁)

- ①従来の「東西」比較に「南」を加えて、より地球規模に近い範囲で考察できる。
- ②研究者自身の主観がもつ文化的偏向を、他の二つの参照点によって是正できる。
- ③グローバル化しつつある西洋の技術文化の再考が現在必要とされている領域では、西洋の技術文化も、人類の複数の技術文化の一つとして相対化する視点をもてる。

私たちは、3地域での学校教育の進展と言語やナショナリズムにまつわる文化・社会現象との関係を焦点として、以下に掲げる三つの側面から比較研究を進めていきたい。

(1)近代的学校制度の普及に対する地域住民の対応

各地域で国家政策により近代的な学校制度が敷設されていく過程を、就学率等の統計資料から把握するとともに、学校教育に対する住民の対応を、近代化に伴う地域の階層構造や権力関係の変化、産業構造や生活様式の変容などと関連付けながら検討する。

(2)言語生活における葛藤：方言と標準語に対する態度

近代学校がもたらす標準語教育によって地域言語は方言として抑圧された。それは学校空間外の生活の諸場面で、住民にどのように受け止められていたであろうか。標準語に象徴される学校教育を積極的に受容した人びとの動向も視野に入れて考えたい。

(3)国民教育と地域のエスニックなシンボルとの関係

ナショナリズムのシンボルが、学校教育以外にも様々なメディアを通じて地域へ浸透した過程で、住民生活に存在した伝統的エスニシティのシンボルとの間に、いかなる関係を生じさせ、地域文化の自覚や主張に影響を与えていたのかを考察する。

- コロキウム -

9月21日(日) 16:10~18:00

コロキウム第2会場(1135教室)

近代日本における教育情報回路としての中央・地方教育会(4)

— 昭和期 教育会の戦時翼賛団体化とその崩壊 —

オルガナイザー 梶山雅史(岐阜女子大学)

報 告 者 坂本紀子(北海道教育大学): 昭和期北海道連合教育会の活動内容
— 戦時翼賛団体への変質過程 —
前田一男(立教大学): 敗戦直後、日本教育会の改組・解散過程
— プランゲ文庫から —

〈設定趣旨〉

昨年度に続き、教育情報回路としての中央・地方教育会の実態・機能の解明をめざす第4回の企画であり、今回は昭和期を研究対象とする。1929(昭和4)年の教化総動員運動の実施以降、教育会は重要な組織として国策に組み込まれ、1944(昭和19)年には中央、地方教育会は「大日本教育会」に統合一元化され、戦時一大翼賛団体となる。敗戦を迎え「日本教育会」と改称、1948(昭和23)年に解散するに至った。その具体的局面、プロセスについて新たな史料発掘と歴史分析を試みる。以下の事例報告をもとに研究交流を深めたい。

○坂本報告

1929(昭和4)年の教化総動員運動実施以降、教育会は重要な教化団体として運動に取り込まれ、戦時翼賛団体へと変質していったとされている。しかし、地方教育会のその具体的な変質過程については、十分に明らかにされてはいない。北海道では、1918年(大正7)に道内各地にあった教育会を結集した「北海道連合教育会」が発足する。当会が1944(昭和19)年に「大日本教育会」に統合されるまで発行した月刊誌、「北海道教育」に記されている活動内容、および雑誌そのものが担った役割を考察することによって、その変質過程の分析を試みる。

○前田報告

1944(昭和19)年には中央、地方教育会は「大日本教育会」に一元的に統合され、文字通り翼賛団体となる。敗戦を経て「日本教育会」と改称し、1948(昭和23)年に解散するに至った。その具体的局面やプロセスについては、史料的な制約もあって十分な歴史的検証が行われているとは言えない。今回、プランゲ文庫(米国メリーランド大学が所蔵する占領期日本の雑誌、新聞、図書などのメディア)に含まれる教育会関係の資料を整理しつつ、敗戦直後の中央・地方の教育会の動向を考察していきたい。

- コロキウム -

9月21日(日) 16:10~18:00

コロキウム第3会場(1143教室)

ドキュメンタリー映像から「多文化共生」教育の可能性を考える
—「Promises 邦題：プロミス(2001)」を素材として—

オルガナイザー 酒井 豊 (青山学院大学)
報 告 者 一見真理子 (国立教育政策研究所)
佐藤 由美 (埼玉工業大学)
新田 司 (千葉敬愛短期大学)
佐々木竜太 (青山学院大学)

〈設定趣旨〉

本コロキウムは、第52回大会準備委員が、〈価値教育〉(宗教教育・道徳教育)を考える大会シンポジウムの準備にとりくむなかから、自発的に生まれた有志企画である。

イスラエル／パレスチナという深刻な歴史的、宗教的、政治的敵対関係にある地域で1997年から2001年に奇跡のように実現した両地区の子どもたちへのインタビューをまとめあげ、国際的にも評判となった本作品を、ここでは、多文化共生をめざす価値教育の可能性を考えるひとつの素材としてとりあげる。

まずは参加者間でこの貴重な映像を、歴史資料として虚心にじっくり見ることをめざしたい。

〈作品紹介〉

“Promises”(「プロミスーあといくつ“約束”すればいいのだろう、世界を変えるためには」)

監督：ジャスティーン・シャピロ、B.Z.コールドバーグ、共同監督：カルロス・ボラド

2001年、アメリカ、インディペンデント作品。

第74回アカデミー賞長編ドキュメンタリー部門ノミネート(2002)。

ロッテルダム国際映画祭：観客賞、バンクーバー国際映画祭：観客賞・多様性スピリット賞、

サンフランシスコ映画祭：ベストドキュメンタリー賞ほか多数受賞(いずれも2001)。

- 青山学院の建築物 -

青山学院には、「青山学院ベリーホール」と「間島記念館」という国登録有形文化財に登録（2008年3月21日）された2つの建築物があります。9月20日（土）、21日（日）の午前11時から午後2時までの間、ベリーホール内にある「チャールズ・オスカー・ミラー記念礼拝堂」を公開いたしますので、この機会にぜひご覧ください。

【青山学院ベリーホール】



ベリーホール



チャールズ・オスカー・ミラー記念礼拝堂

1931年、神学部校舎として建築されました。現在は本部棟として利用されています。

「ベリーホール」は、1905年から1931年まで神学部で教鞭をとり、神学部長になられたA. D. ベリー先生が、関東大震災で倒壊した青山学院の校舎復興のための募金活動に尽力されたため、後年、校舎建築に貢献された功績をたたえて、ベリーホールと命名されました。

ベリーホール内には、チャールズ・オスカー・ミラー夫人の遺志による寄付金で建設された「チャールズ・オスカー・ミラー記念礼拝堂」があり、講壇の横には、現役で活躍するパイプオルガンとしては、日本最古といわれる1932年ドイツ・ヴァルカー社製のパイプオルガンが備えられています。また、この礼拝堂をイメージして「学生時代」の歌の中で、「蔦の絡まるチャペル」として歌われています。

<構造>

鉄筋コンクリート造3階建（一部平屋建）、地階・屋上を有する。正面左手側が礼拝堂であるが、左右対称の構成とするため右手部分も平屋建とした。ゴシックを基調とした厳格な左右対称の建築物である。

【間島記念館】



1929年に図書館として建設されました。関東大震災後の校舎復興を機に、中央図書館を新築することになり、校友会会長であり理事であった間島弟彦氏がその資金の寄付を申し出られ、死後に愛子夫人がその遺志を継いで建設されました。

<構造>

正面にコリント式の円柱を連ね、それが高い基壇をなす一階部分に載る姿は古代ローマ神殿を思わせるところがあり、本格的な古典主義的構成を持つ建築物である。

※青山学院ホームページ (<http://www.aoyamagakuin.jp/news/2007/gakuin/0322/0322.html>) より転載。

- 史料展示のご案内 -

青山学院には、「青山学院資料センター」(<http://www.aoyamagakuin.jp/mcenter/>)があり、130余年にわたる青山学院の歴史資料の収集・保管・公開をしております。ここには明治以来のキリスト教関係図書、メソジスト教会関係資料、キリスト教界関係者の伝記の他、明治期英語・英文学関係図書などがあります。現在は相模原キャンパスへ臨時移転しており、展示ホールが閉室しているのですが、大会当日は、第10会議室(場所については7ページをご参照ください)にて、資料センターが所蔵している史料の一部を展示いたします。

皆さまのご来場を、お待ちしております。